



2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月29日

リズム時計工業株式会社
(東証一部 7769)

- ・第2四半期決算の総括
- ・今後の展開
- ・再発防止策の進捗状況
- ・事業改革
- ・時計卸・小売チェーンの買収
- ・トピックス
- ・中期経営計画の概要(参考資料)

注：本資料中、特段の注記がある場合を除き、金額は切り捨て、年は事業年度(4月～翌3月)で表しています。
また、計画は2019年5月30日発表『中期経営計画・決算説明会(2019年度-2021年度)』。

第2四半期決算の総括(1)-サマリー

(百万円)

	2018年度(19/3期) Q2	2019年度(20/3期) Q2		比 較	
	(実績)	(計画)	(実績)	(計画比)	(前期比)
売 上 高	15,304	14,800	14,305	▲495 ▲3.3%	▲999 ▲6.5%
国内売上高	(9,427)	(8,455)	(8,515)	(61)	(▲911)
海外売上高	(5,877)	(6,345)	(5,789)	(▲555)	(▲87)
営業利益	320	150	10	▲140	▲310
営業利益率	2.1%	1.0%	0.1%	▲93.3%	▲96.9%
経常利益	395	200	80	▲120	▲314
親会社株主に帰属する 四半期純利益	102	0	▲110	▲110	▲212
1株あたり四半期 純利益(円)	12.41	0	▲13.36	-	▲25.77
期末日為替レート(US\$=¥) []は期中平均	113 [109]	120	107 [109]	▲13	▲6
海外売上比率	38.4%	—	40.5%	—	+2.1%

注 計画:2019年5月30日発表『中期経営計画・決算説明会(2019年度～2021年度)』

主 な 利 益 増 減 要 因

当期計上額 前期比利益インパクト

【営業外損益】

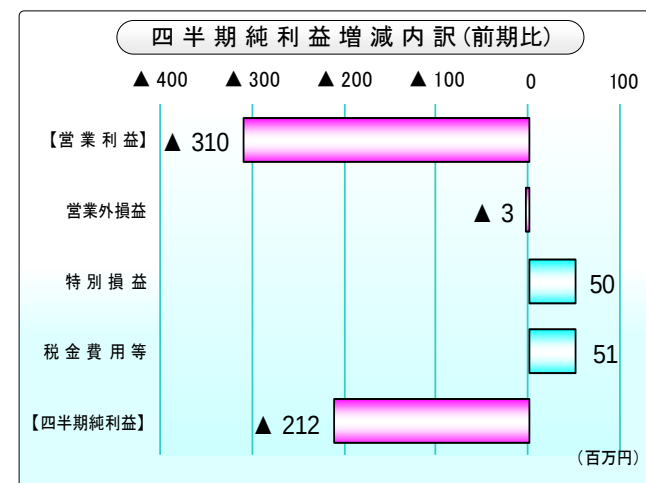
受取配当金	+54百万円	▲14百万円
受取賃貸料	+167百万円	+75百万円
信託収入	+0百万円	▲64百万円
賃貸費用	+81百万円	+53百万円
信託費用	+0百万円	▲32百万円
為替差損	+15百万円	▲17百万円

【特別利益】

投資有価証券売却益	+54百万円	+54百万円
-----------	--------	--------

【法人税等】

法人税等調整額	+210百万円	▲51百万円
---------	---------	--------



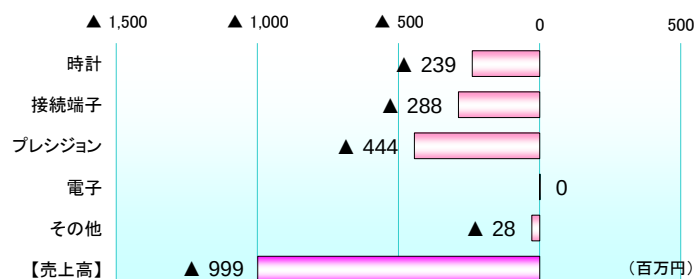
第2四半期決算の総括(2)-セグメント別実績

(百万円)

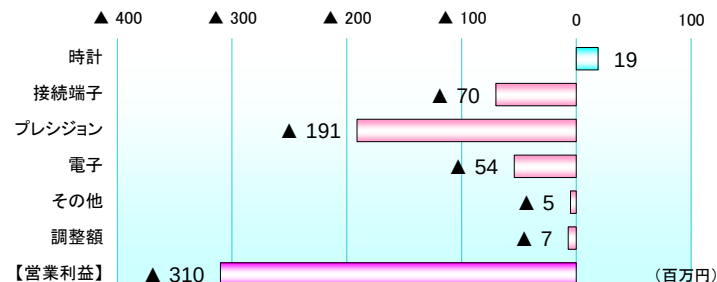
	2018年度(2019/3期) Q2			2019年度(2020/3期) Q2				
	実績	%	前期比	計画	実績	%	計画比	前期比
売上高	15,304	100%	▲523	14,800	14,305	100%	▲495	▲999
時計事業	4,418	29%	▲486	4,400	4,179	29%	▲221	▲239
接続端子事業	4,800	31%	233	4,850	4,511	32%	▲339	▲288
プレシジョン事業	3,262	21%	▲78	3,100	2,817	20%	▲283	▲444
電子事業	2,624	17%	▲220	2,250	2,625	18%	375	0
その他	198	1%	28	200	170	1%	▲30	▲28
営業利益	320	2.1%	▲9	150	10	0.1%	▲140	▲310
時計事業	▲249	▲5.6%	▲59	▲150	▲230	▲5.5%	▲80	19
接続端子事業	402	8.4%	▲83	300	331	7.3%	31	▲70
プレシジョン事業	378	11.6%	6	300	186	6.6%	▲114	▲191
電子事業	4	0.2%	145	▲100	▲50	▲1.9%	50	▲54
その他	29	15.0%	3	30	23	13.8%	▲7	▲5
調整額	▲244	-	▲21	▲230	▲252	-	▲22	▲7

※ %:売上高欄は、構成比、営業利益欄は、売上高営業利益率

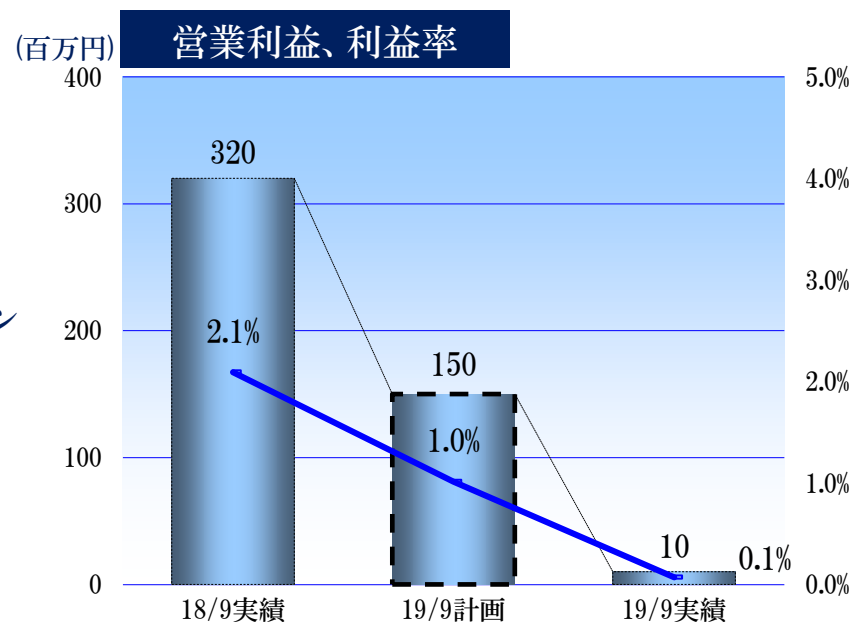
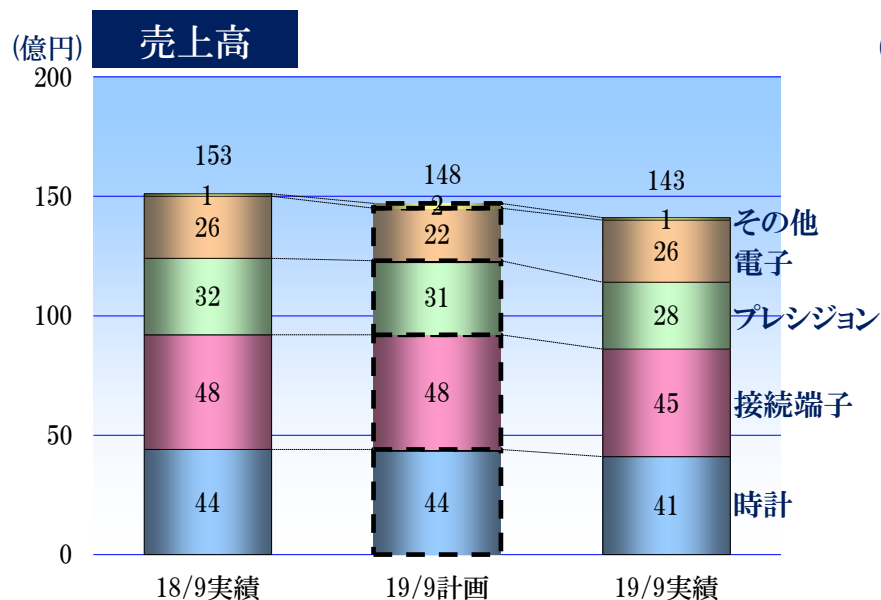
売上高増減内訳(前期比)



営業利益増減内訳(前期比)

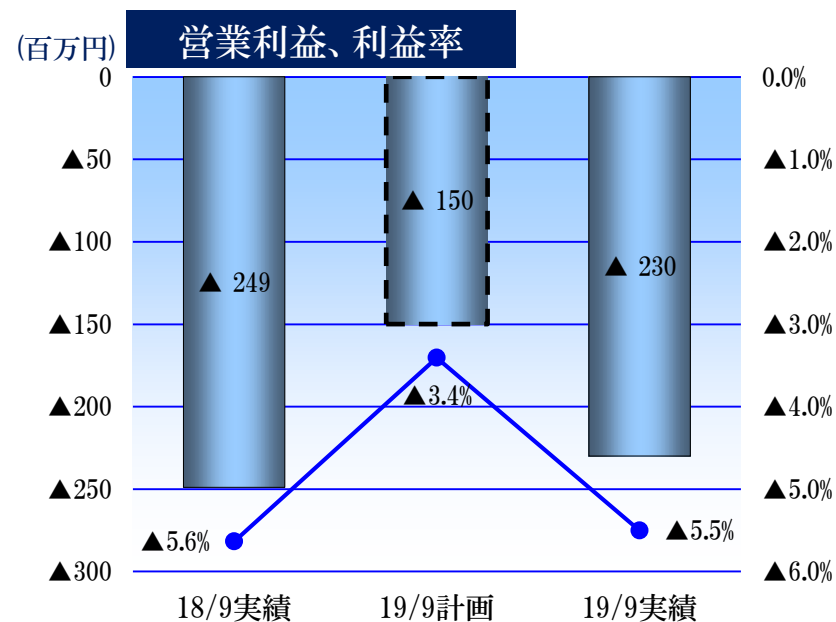
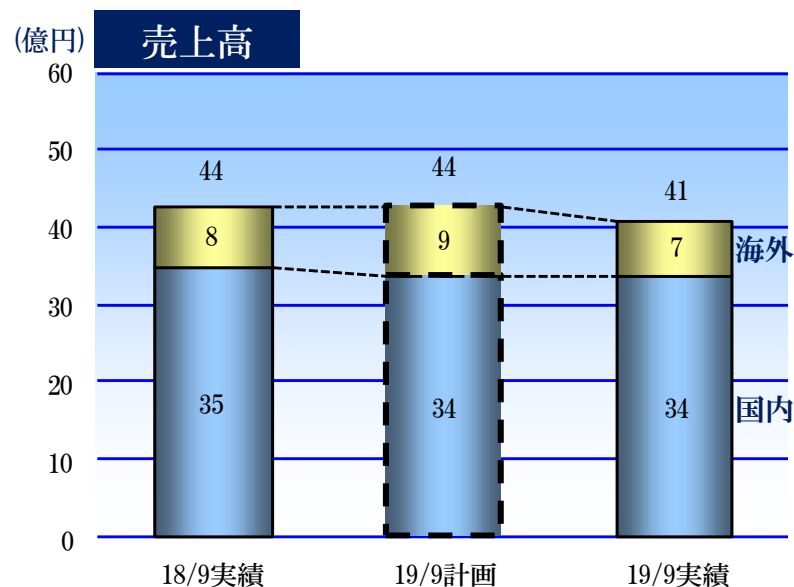


第2四半期決算の総括(3)-全体



総括

- 【売上高】** 設備投資や自動車関連部品の受注減少により、接続端子・プレシジョンが減収。
時計は国内外で売上が伸びず減収。電子は横ばい。
- 【営業利益】** 時計は前年より改善も、営業損失。
接続端子・プレシジョンも減益。電子は営業損失。
- 【当期純利益】** 有価証券売却益を得るも、純損失(前年比▲212百万円)となった。



総括

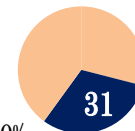
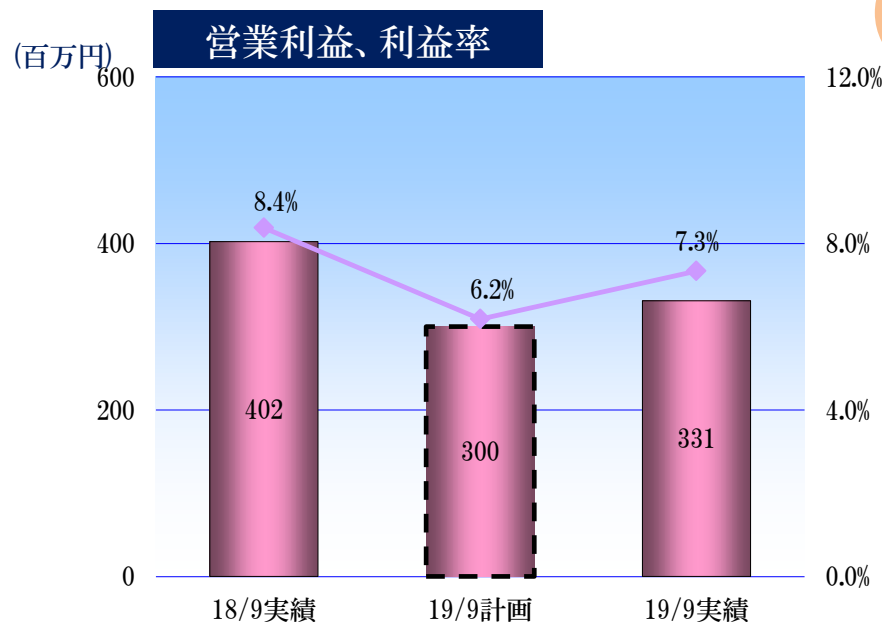
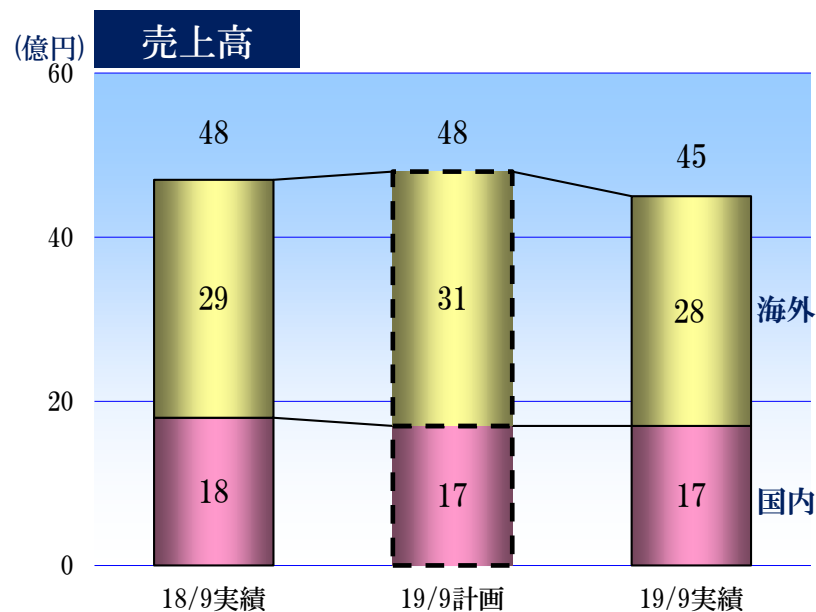
【国内】 減収増益

- 売上は、モバイルファン等、非クロックは伸びるも、クロック市場の縮小が止まらず。

【海外】 減収減益

- 売上は、米国でのインターネット販売が苦戦。
- 営業利益は、ベトナム工場の撤退に伴い発生した費用等により営業損失。

第2四半期決算の総括(5)-接続端子事業



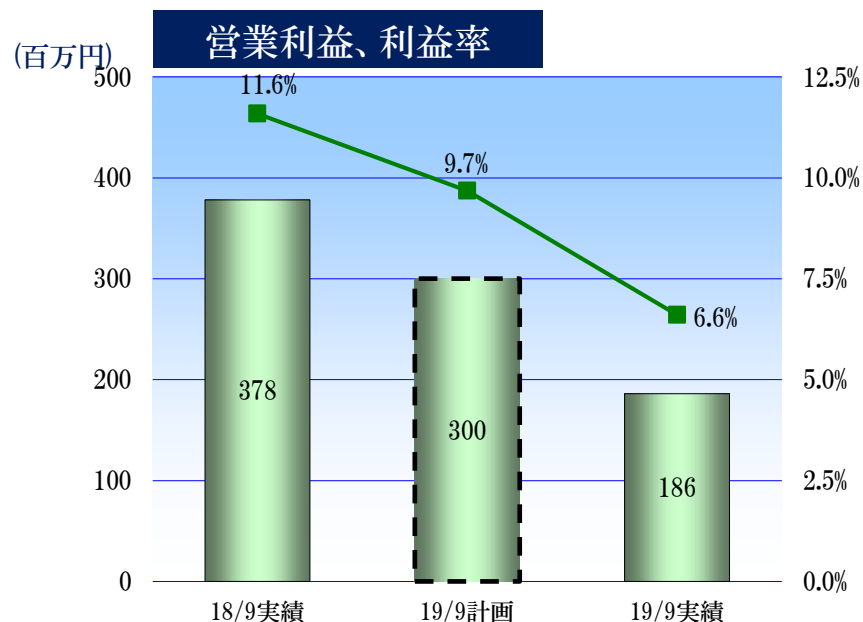
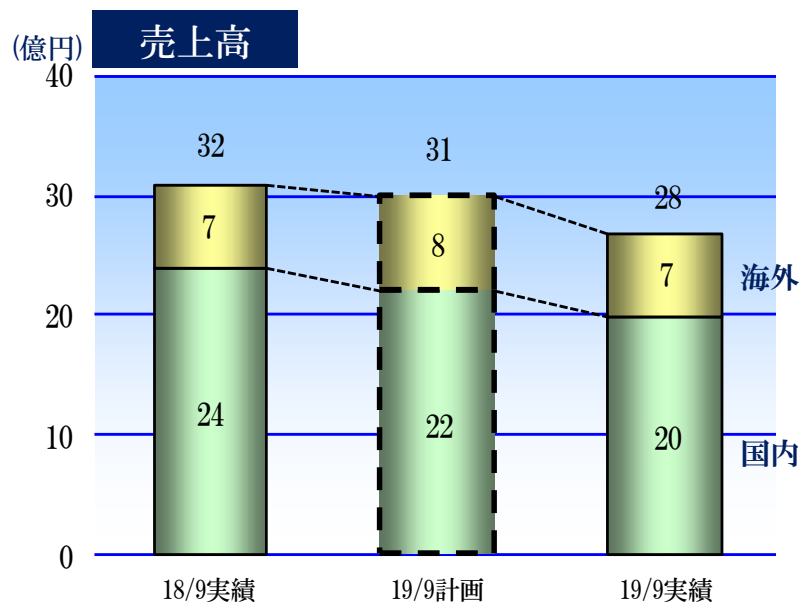
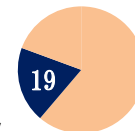
総括

【国内】 減収減益

- 売上は、自動車・電機部品他、全般的な受注減少により減収。
- 営業利益は、国内受注の減少により減益。

【海外】 減収減益

- 売上は、中国向け空調部品、東南アジアでの自動車・二輪向け部品の受注減。
- 営業利益は、受注減少及び、設備投資による費用の増加。



総括

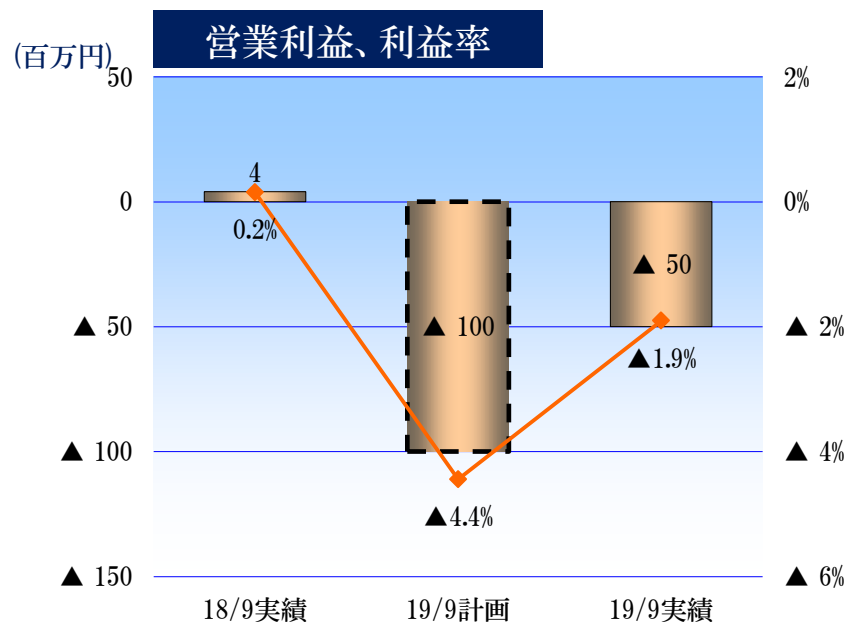
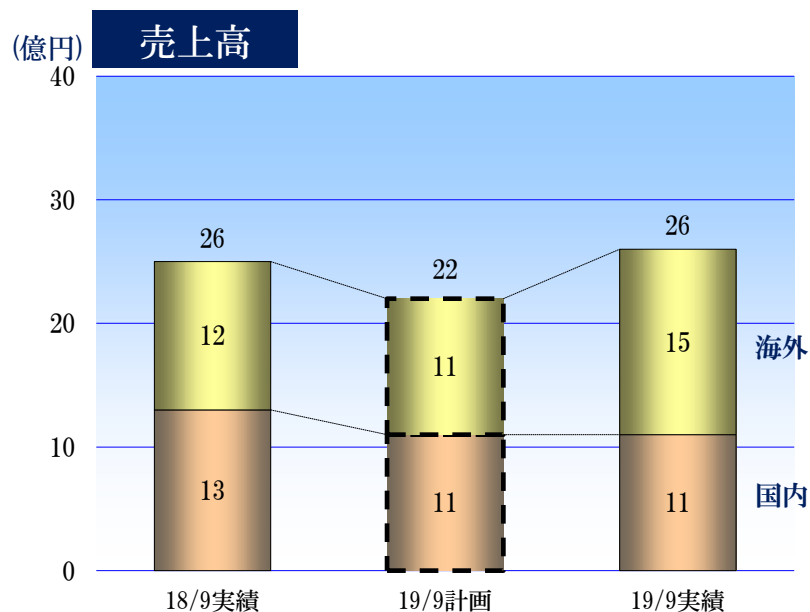
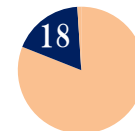
【国内】 減収減益

- 売上は、米中通商問題の影響を受け工作機械部品・自動車関連部品の受注減少。
- 営業利益は、国内受注が減少。

【海外】 減収減益

- 売上は、ベトナム・中国での受注停滞。
- 営業利益は、合理化効果は出るも、受注減少の影響が大きい。

第2四半期決算の総括(7)-電子事業



総括

【国内】 減収減益

- ・売上は、自動車関連の受注好調も、EMS・情報機器関連の受注減少。
- ・営業利益は、受注減少と原価率の悪化により営業損失。

【海外】 増収減益

- ・売上は、ベトナムのEMS製品が好調に推移した。
- ・営業利益は、中国及びベトナム工場の原価率悪化により営業損失。

第2四半期決算の総括(8)-B/S, C/F

B/S				(百万円)			
	19/3	19/9	前期末 増減		19/3	19/9	前期末 増減
流動資産	25,736	23,679	▲2,057	流動負債	5,620	7,317	+1,697
固定資産				固定負債	6,185	4,078	▲2,107
有形固定資産	8,431	9,914	+1,483	負債合計	11,805	11,396	▲409
投資有価証券	2,387	2,109	▲278	資本金	12,372	12,372	-
その他	3,257	2,903	▲353	剰余金、その他	15,908	15,112	▲795
				自己株式	▲273	▲274	▲0
				純資産合計	28,007	27,210	▲796
資産合計	39,812	38,607	▲1,205	負債・資本合計	39,812	38,607	▲1,205

注：百万円未満切り捨てて表示しております。

自己資本比率	70.3%	70.5%	+0.2%
1株あたり純資産	3,389.98	3,293.79	-96.19

C/F				(百万円)
	18/9	19/9	前期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,041	304	▲736	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,102	▲829	+272	
フリーキャッシュ・フロー	▲61	▲524	▲463	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲330	▲112	+218	
現金及び同等物の期末残高	9,286	9,414	+127	

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

・ 減価償却費	487
・ のれん償却額	160
・ 売上債権の増減額	783
・ たな卸資産の増減額	▲453
・ 仕入債務の増減額	▲77
・ 法人税等の支払額	▲228

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

・ 有形固定資産の取得による支出	▲2,032
------------------	--------

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

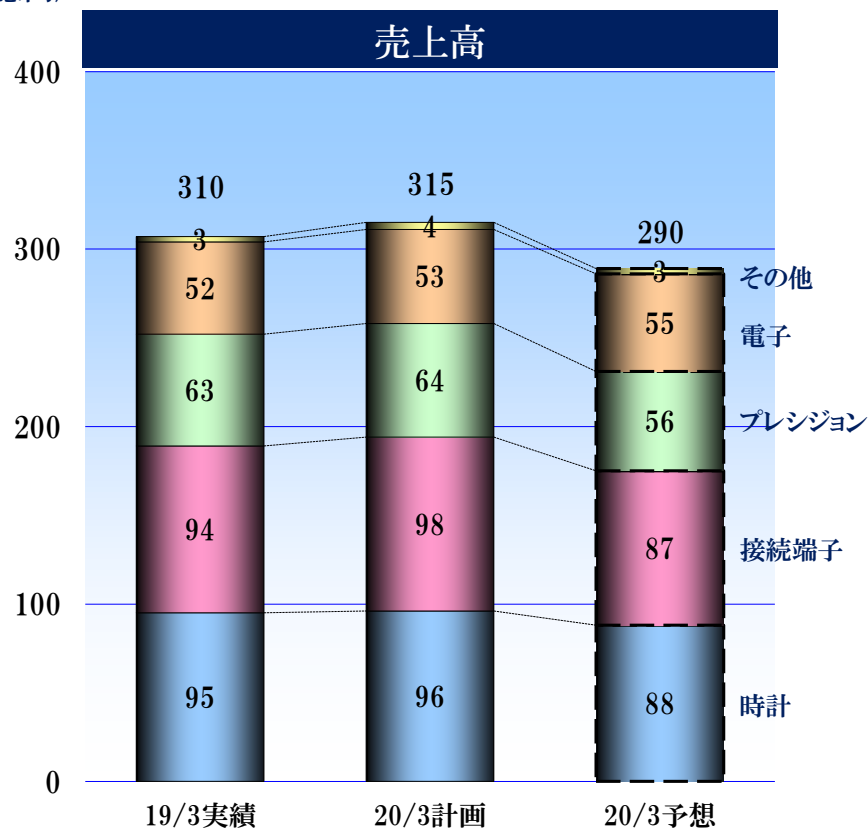
・ 短期借入金の増減額	160
・ 長期借入金の返済による支出	▲22
・ 配当金の支払	▲247

今後の展開(1)-全体

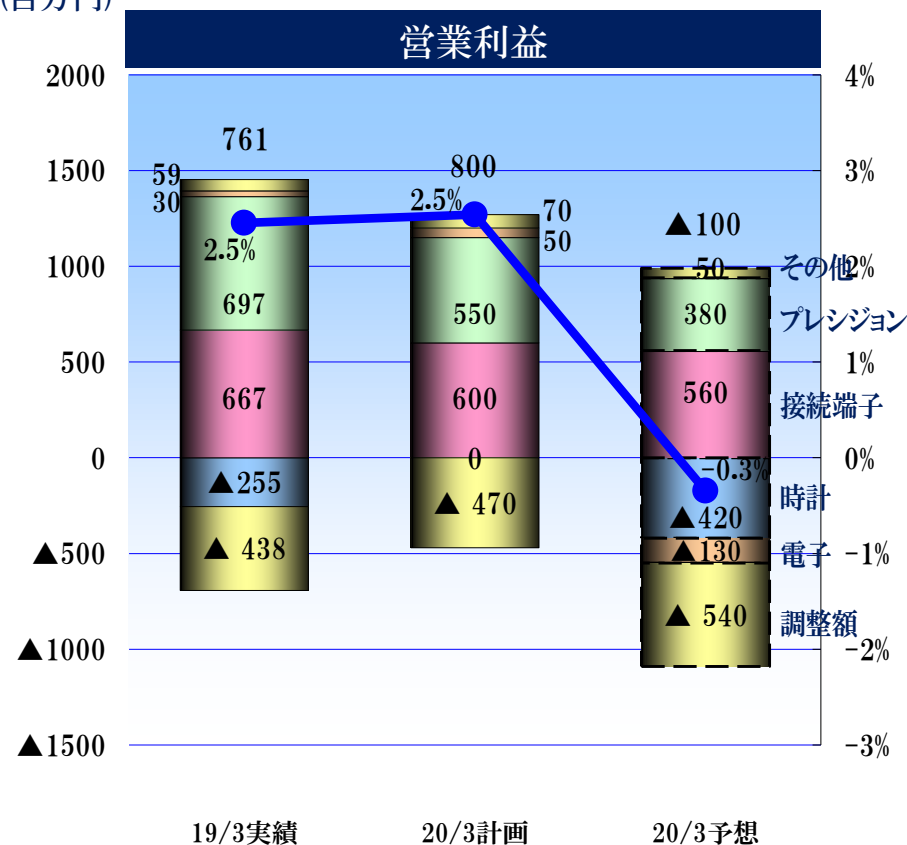
通期予想

1. 売上は、電子事業のみ増額、時計事業・接続端子事業・プレジジョン事業は下方修正。
全体では、期初予想に対し▲2,500百万円の未達。
2. 営業利益については4事業で下方修正。
全体では、期初予想に対し▲900百万円。前年比▲861百万円減益。
(為替レート(US\$) 110円)

(億円)



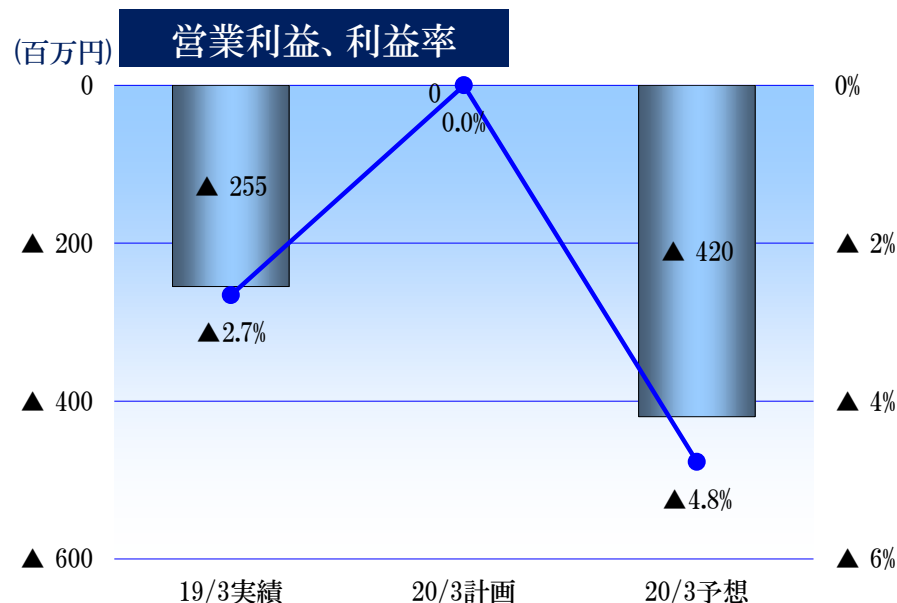
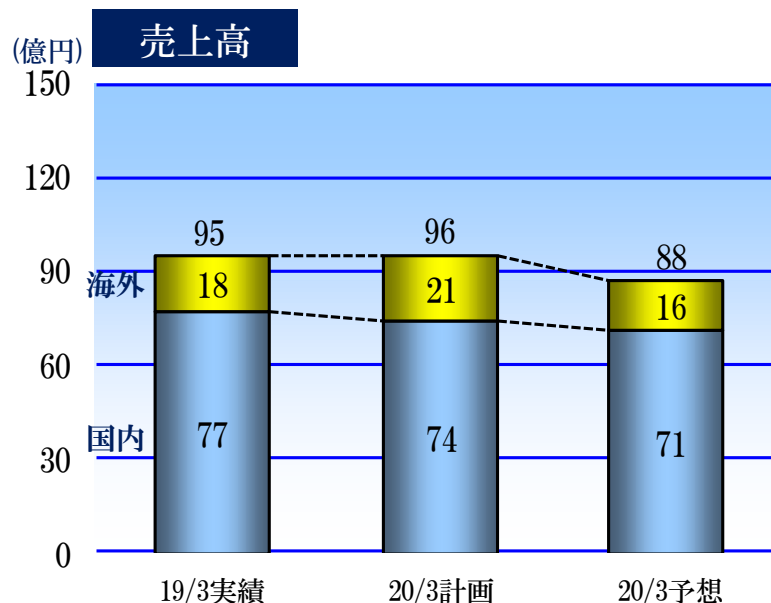
(百万円)



今後の展開(2)-通期業績予想

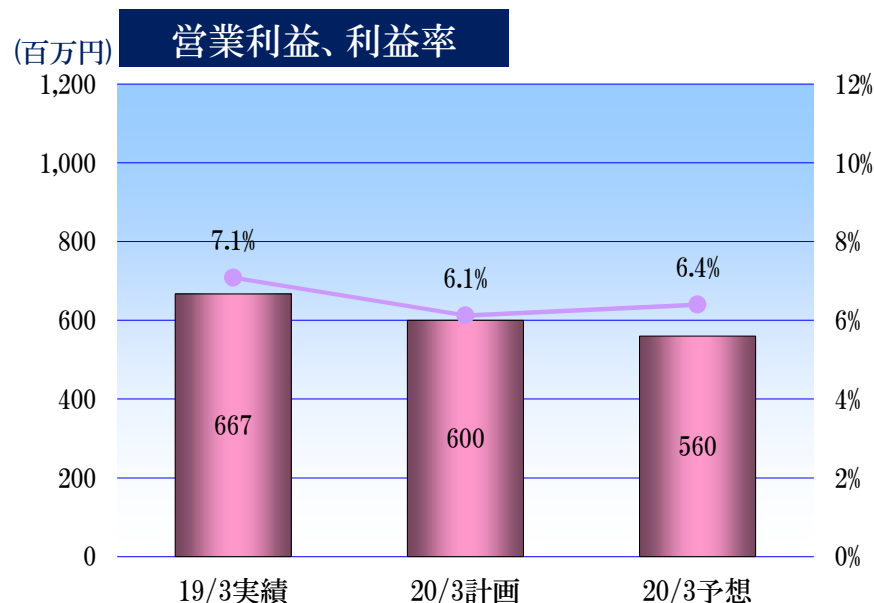
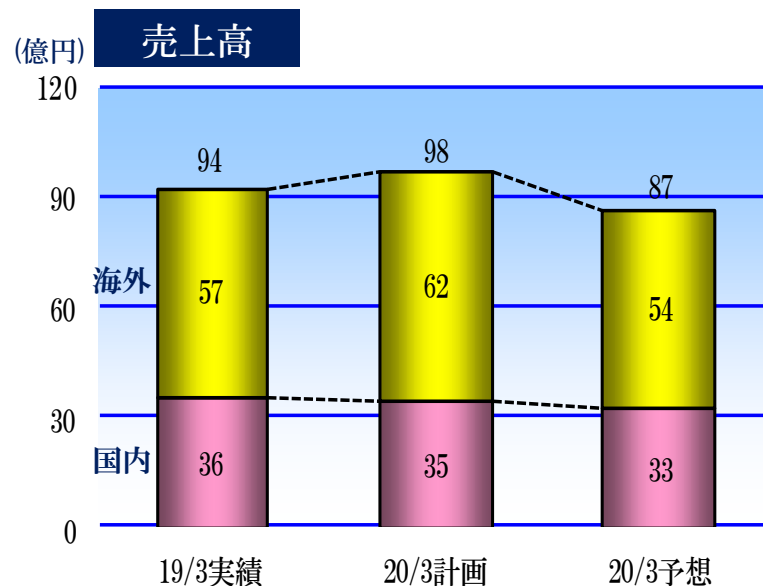
(百万円)

	2018年度(2019/3)			2019年度(2020/3)					
	実績	率	前期比	業績予想(2019.11)			当初計画(2019.5)		
				計画	率	前期比	計画	率	差異
売上高	31,016	100%	▲500	29,000	100%	▲2,016	31,500	100%	▲2,500
時計事業	9,588	31%	▲631	8,800	30%	▲788	9,600	30%	▲800
接続端子事業	9,421	30%	+437	8,750	30%	▲671	9,800	31%	▲1,050
プレシジョン事業	6,348	20%	▲157	5,600	19%	▲748	6,400	20%	▲800
電子事業	5,273	17%	▲162	5,500	19%	+227	5,300	17%	+200
その他	383	1%	+13	350	1%	▲33	400	1%	▲50
営業利益	761	2%	▲82	▲100	-0.3%	▲861	800	3%	▲900
時計事業	▲255	-2.7%	▲51	▲420	-4.8%	▲165	0	0%	▲420
接続端子事業	667	7.1%	▲262	560	6%	▲107	600	6%	▲40
プレシジョン事業	697	11.0%	▲5	380	7%	▲317	550	9%	▲170
電子事業	30	0.6%	+290	▲130	-2.4%	▲160	50	1%	▲180
その他	59	15.4%	+4	50	14%	▲9	70	18%	▲20
調整額	▲438	-	▲57	▲540	-	▲102	▲470	-	▲70
経常利益	913	2.9%	▲67	0	0%	▲913	900	3%	▲900
親会社株主に帰属する当期純利益	▲264	-0.9%	▲266	▲400	-1.4%	▲136	500	2%	▲900
為替レート(期末日レート)	111	-	+5	110	-	+9	120	-	▲10



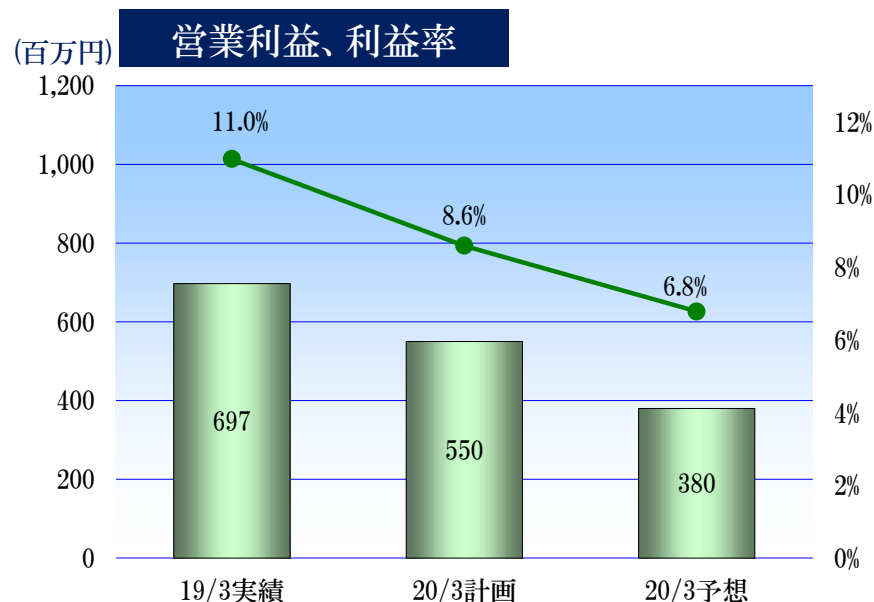
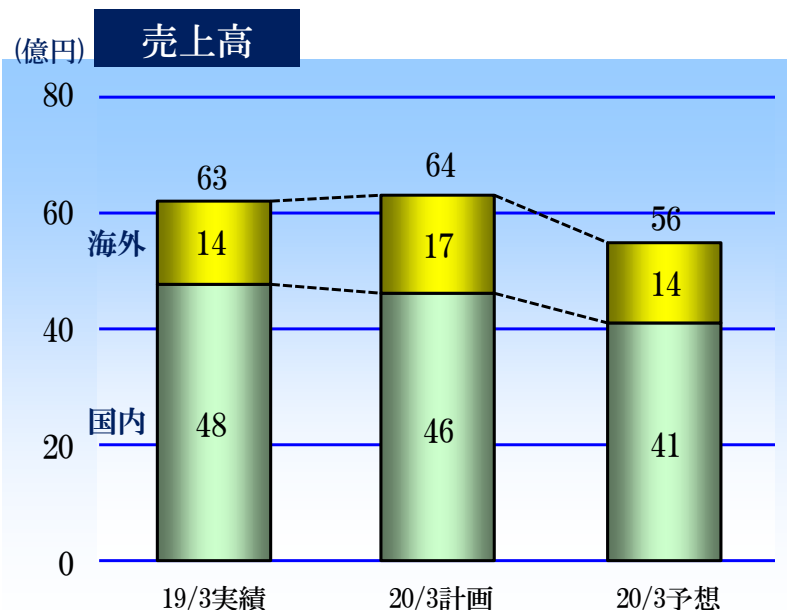
方 策

- 【国内】 [追] ・商品戦略の再検討(ラインナップ、型数のリストラ)
- [追] ・販売政策の見直しと開発営業強化で収益改善
- [追] ・非クロックへのリソース強化による収益力強化
- 【海外】 [追] ・販売先の選択と集中
- ・中国・米国・アジアでのインターネット販売の拡大
- 【生産】 [追] ・ベトナム工場からの撤退、中国工場の業務改革と体制の適正化
- [追] ・茨城工場の業務改革によるスリム化



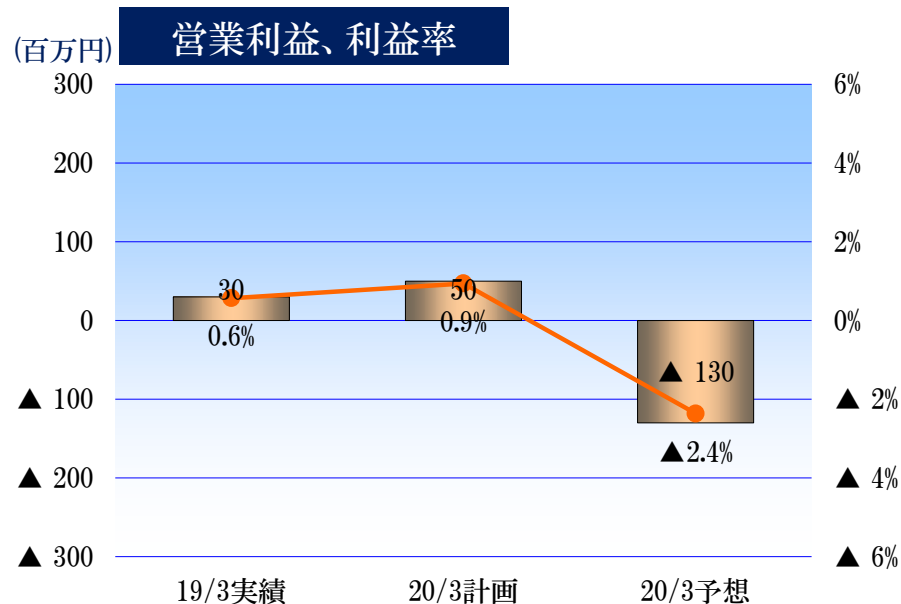
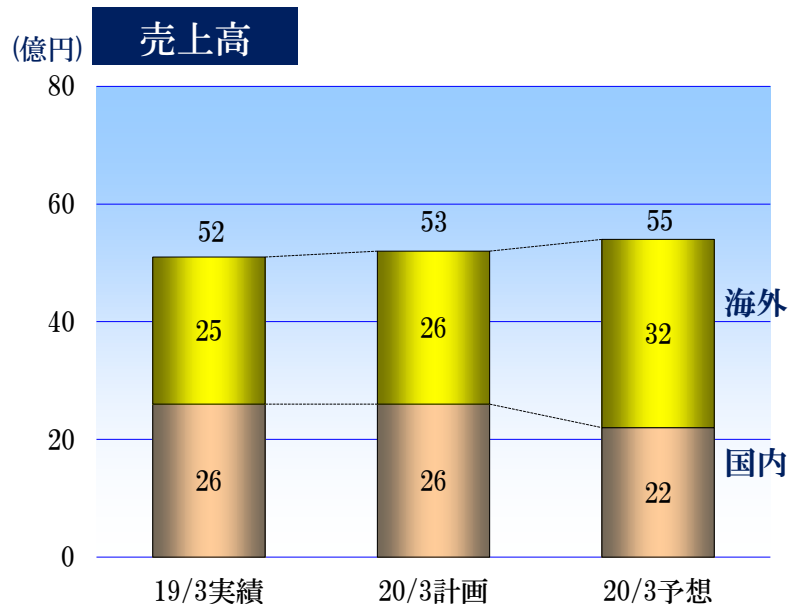
方 策

- 【国内】 ・主力4品種の売上確保と、新商品提案による新規案件の受注
- 【海外】 ・グループのネットワークを活かした営業展開により各拠点の受注拡大
- 【生産】 [追] ・品質、効率、利益を意識したモノづくり工程と管理方法の見直し
- [追] ・将来を見すえた技術革新、新技術への挑戦



方 策

- 【国内】 ・新分野の早期受注拡大
- 【海外】 ・光学機器および事務機器の金型及び精密加工部品の拡大
- 【生産】 [追] ・自動化による生産効率アップと工程改善による設備稼働率の向上
- [追] ・成形新工場の竣工と本格稼働に向けた準備



方 策

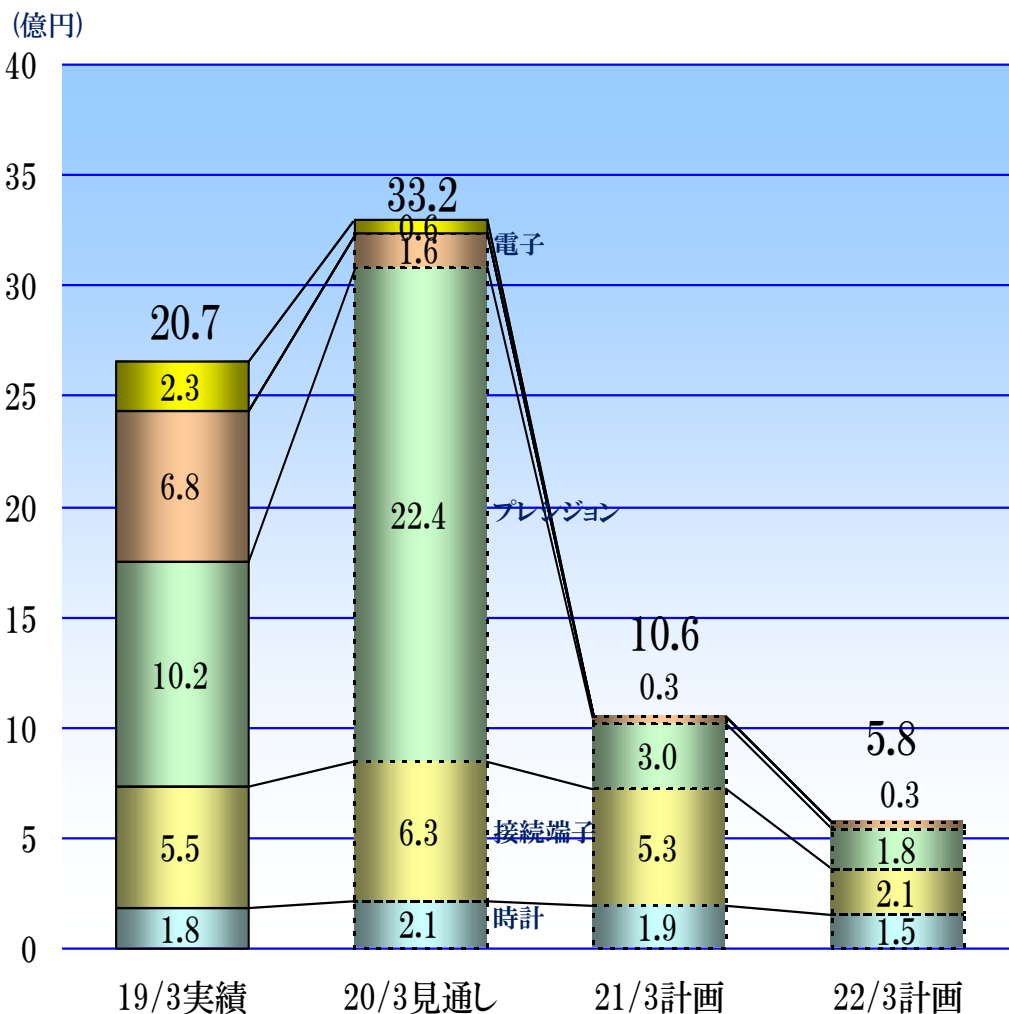
【国内】 [追] ・営業、生産機能の東北リズムへの集約

【海外】 ・ベトナムでの電子機器等のEMS受注拡大

【生産】 [追] ・中国工場からの撤退によるベトナム工場への経営資源集中

今後の展開(7)-設備投資、減価償却

設備投資

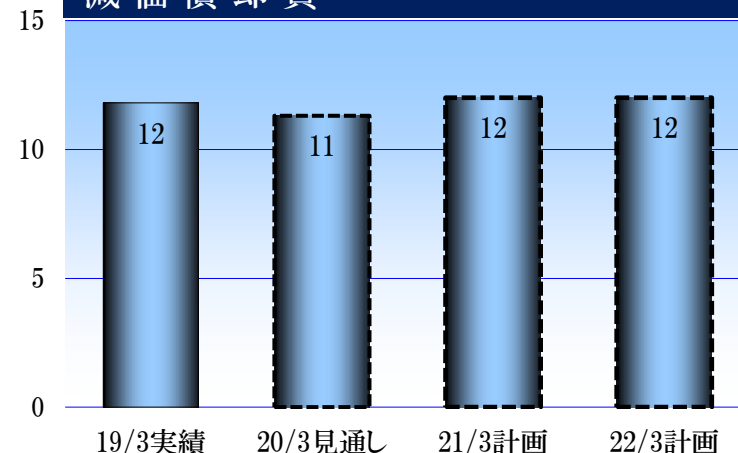


2019年度の主な設備投資計画内訳

(億円)

[時 計]	2.1	環境対応工事、成形機、塗装機、振動試験機
[接 続 端 子]	6.3	工場新設（ハノイ）、プレス機、新システム導入、成形機、加工機
[プレシジョン]	22.4	工場新設（自動化、クリーン化）、加工機、自動洗浄乾燥機
[電 子]	1.6	外観検査機、実装機、バーコードシステム
合 計	33.2	

減価償却費



1 発覚

2018年11月、中国工場(麗声東莞)の資金繰り悪化に対する社内調査にて会計処理および購買取引の適切性に疑義が生じる。

⇒特別調査委員会による調査(2019年1月～3月)

2 調査結果

2つの不適切な会計処理が発覚。いずれも利益見通しと実績の乖離を隠すために現地トップ層が指示。

①標準原価操作：売上原価を減らし、在庫を増加させて利益を改ざん。
(決算への影響は2年間で440百万円)

②利益操作：費用の前倒し計上や、事業部間の利益を調整。
(会社全体の決算への影響は軽微)

※当初疑義のあった不適切な購買取引については認められず。

3 再発防止策

麗声東莞だけでなく、グループ全体のガバナンスを強化する必要がある。

⇒リズム時計、麗声東莞の両面にて再発防止策を実施する。

課題	再発防止策	進捗状況
ガバナンス	製造、生産管理、管理部門の担当役員分離	2019年4月1日付で役員体制見直し。
	業務改善活動の実施	2019年7月より外部コンサルタントを入れて改善活動中。
	管理部門の独立性確保	2019年7月より経理規程を改訂し、運用開始。
	計画的な人事ローテーション	適材適所をめざし7月、10月に実施。今後も定期的に実施。
	人事評価制度の見直し	2019年10月より着手。
	原価計算・原価管理フローの整備	新ERPシステム稼働に向け、基礎データの整備中。
コンプライアンス	コンプライアンス推進部門を設置	2019年6月1日付で内部監査科を設置。
	コンプライアンス推進会議の開催	2回/月実施。
	社内意見箱設置、内部通報制度整備	2019年6月設置。
モニタリング	モニタリング部門を設置	2019年6月1日付で設置した内部監査科により、テーマ別監査を開始。
社内環境 コミュニケーション	社内意見箱設置	2019年6月設置。
	従業員との情報共有	部・科会を定期的に開催し、意識改革を推進中。

課題	再発防止策	進捗状況
ガバナンス	ガバナンス強化プロジェクト推進	外部コンサルタントと共に海外主要子会社を往査し、改善策を立案。
	再発防止策の推進 子会社とのコミュニケーション強化 レポーティングラインの再構築	対策を完遂するための具体的方策を関連部署に落とし込み、実行をサポートするための専門部署を新設。 (グループ統括部)
	グループ会社経営幹部の育成	11月より次期幹部候補育成研修開始。 経営幹部任命基準・評価制度は今期中に文書化。
コンプライアンス	トップ方針発信	社内報、朝礼等で発信済み。意識改革が進展するまで今後も定期的に発信。
	海外子会社含めた全拠点にてコンプライアンス研修を実施	11月29日現在で残り1拠点。 (2019年12月までに全29拠点完了予定)
	内部通報窓口の拡充	海外子会社からも通報できるよう拡充済み。
モニタリング	リスクに応じた内部監査に転換	2019年5月より変更済み。
	専門スタッフの育成強化	ガバナンス強化プロジェクトに参加し、ノウハウや知識を習得中。
社内環境 コミュニケーション	役員と社員とのコミュニケーションの機会を創出	2020年開始にてタウンミーティングを準備中。
	グループ全体での双方向型のコミュニケーション推進	朝礼や取締役会など各種会議等で社長より指示。

即時開始

1 商品戦略

クロックのラインナップ、型数のリストラ

非クロック(ファン、加湿器、防災ラジオ等)へのリソース強化

2 営業戦略

国内:販売政策の見直しと開発営業強化

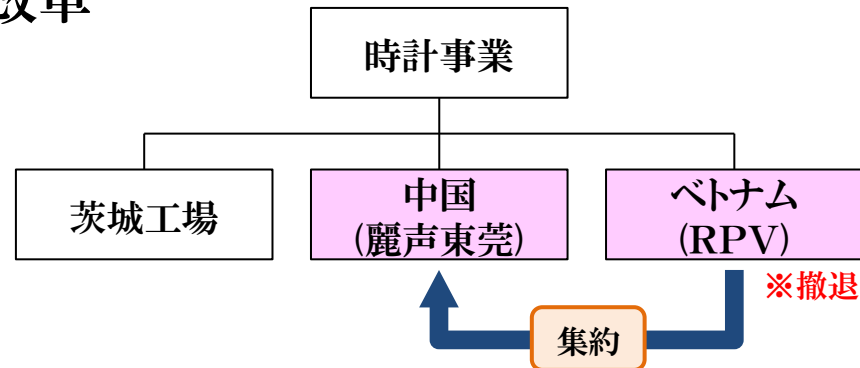
海外:販売先の選択と集中(現行94か国の取引状況の整理)

3 生産拠点

ベトナム工場から撤退し、中国工場に集約

中国工場の業務改革と体制の適正化によるスリム化

茨城工場の業務改革

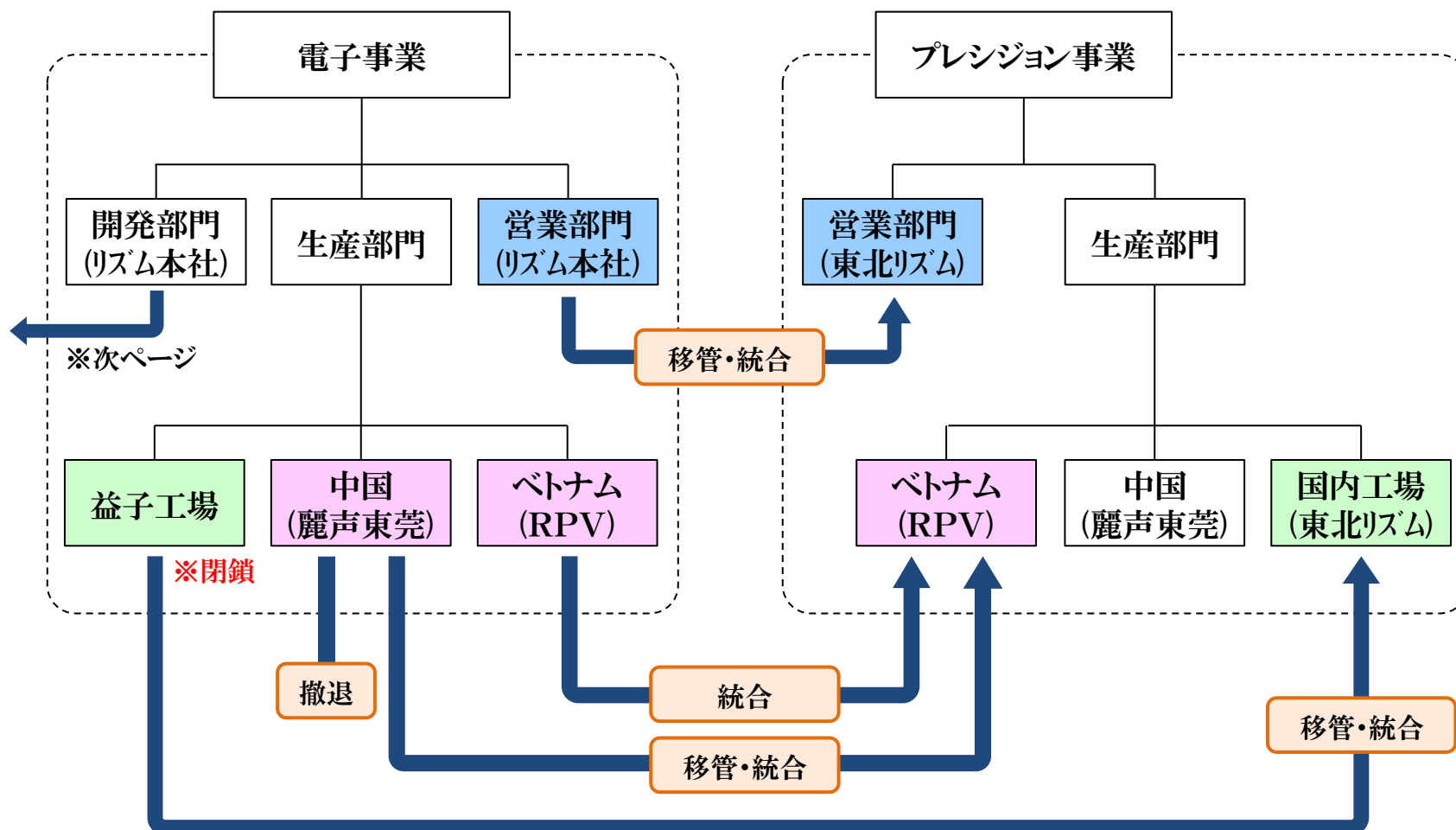


4 本社人員

間接スタッフの業務改革によるスリム化

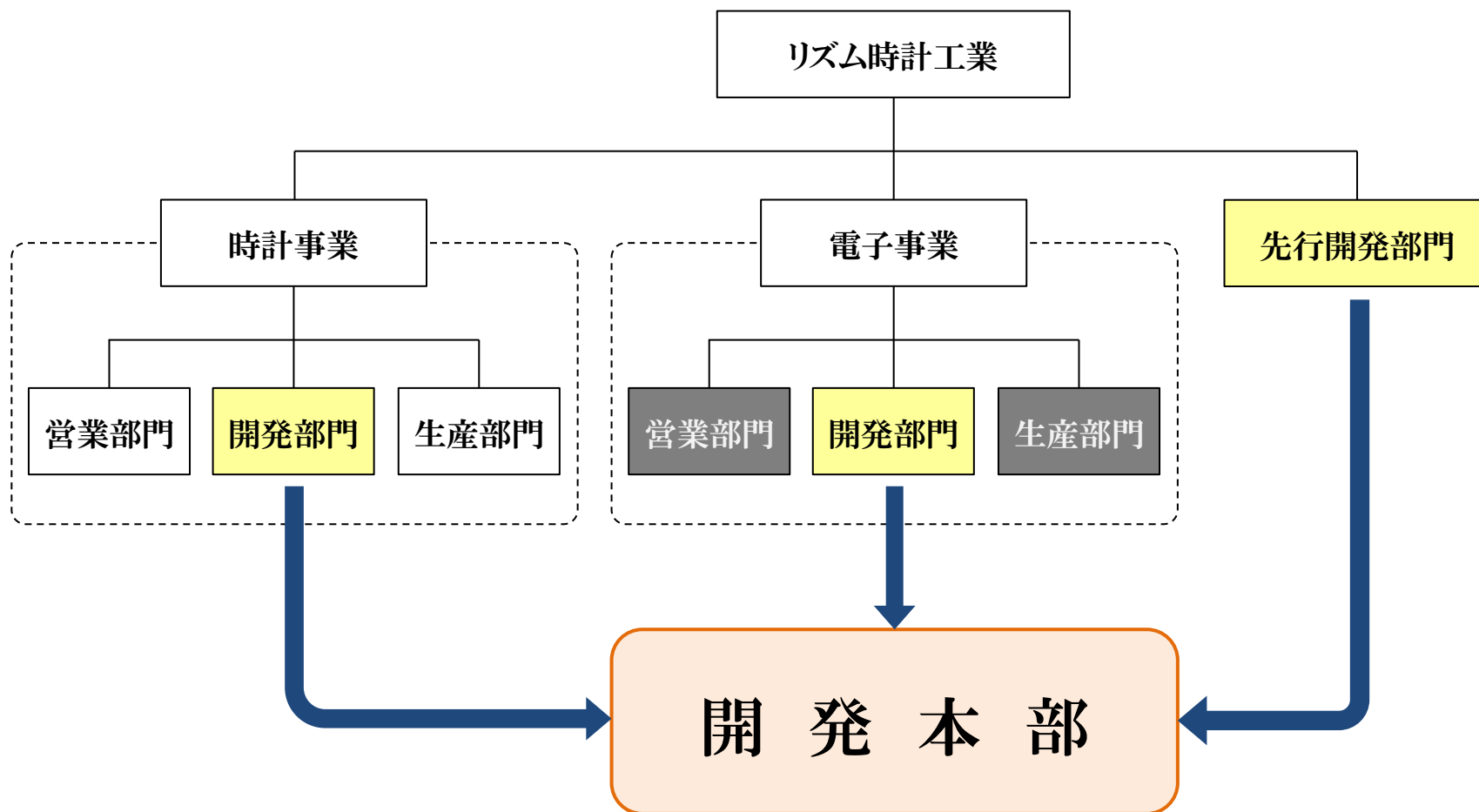
2020年4月

- ・電子事業の各機能を他のセクションに振り分け、効率化・集中化を図る。
- ・プレシジョン事業を一気通貫型(金型、成形、加工、組立)事業として再構築する。



2020年4月

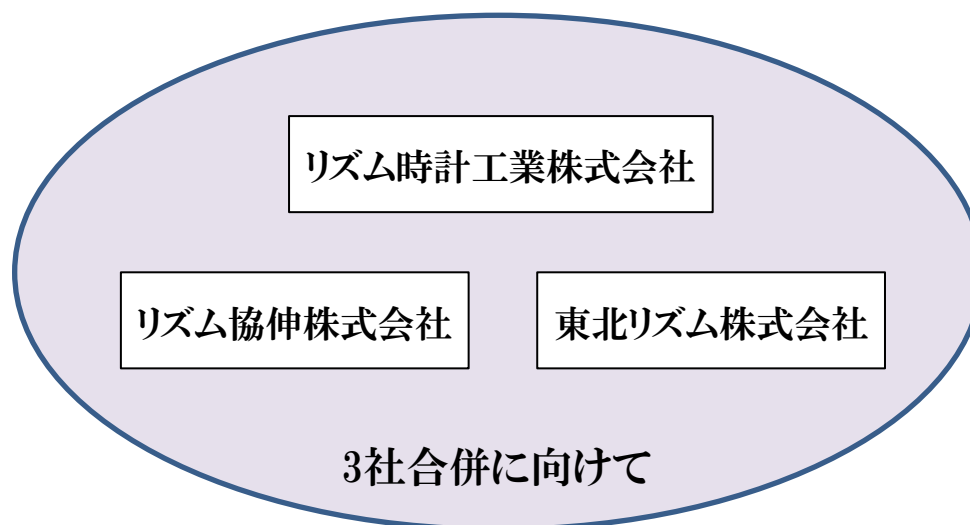
- 技術スタッフを集約し、開発本部(仮称)を設置。
- 新分野の開発強化により、新たな収益の柱を構築する。
- 生産技術部門設置により、コスト構造を見直し、収益力を強化する。



2019年12月

委員会メンバー選出

- ・リズム時計工業(株)、リズム協伸(株)、東北リズム(株)の合併に向け協議委員会を設置。



ガバナンスの強化
インフラの統一
共通部門の効率化
人員の最適化



収益力の強化と持続的な発展を目指す

2020年1月

北欧ブランドを中心とした腕時計、クロックや北欧雑貨等を輸入し、時計小売店や卸会社へ販売すると共に、ネット販売と直営店6店舗を国内で展開する会社を子会社化。

会 社 名	アイ・ネクストジーイー株式会社
直 営 店	NORDIC FEELING等
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 小川志津子
設 立 年 月 日	1989年12月22日
持 株 比 率	小川志津子100%(200株) ⇒ リズム時計が90%取得

従来のリズム時計にはなかった小売販売をパートナーに迎えることで、時計における事業領域を更に広げる。



NORDIC FEELING取扱製品(一例)



BERING
(デンマーク)



JACOB JENSEN
(デンマーク)



ARNE JACOBSEN
(デンマーク)



BRAUN
(ドイツ)



TRIWA
(スウェーデン)



Finn Juhl
(デンマーク)

経済産業省子供デー



8月7日、経済産業省が主催するイベントに、今年も時計組み立て教室として参加しました。小中学生を対象に分解された目覚まし時計を組み立ててもらい、時計の仕組みや時の大切さ、物づくりの楽しさを子供達に体験してもらいました。

福島復興支援 子供時計組立教室



8月30日～31日、日本時計協会主催の『福島復興支援子供時計組み立て教室』に参加しました。子供達に時計の仕組みを教え、興味を持ってもらう事ができました。

ハイグレード商談会開催



9月2日～6日、本社3階ショールームのお披露目を兼ねて、ハイグレード商談会を開催しました。

デザインアワード表彰式



10月19日、ifs未来研究所にてデザインアワード プロダクト部門の表彰式を行いました。当日は大賞・優秀賞の受賞者による作品のプレゼンテーション、審査員によるトークショー、交流会などが行われ和やかな表彰式となりました。

救援物資を提供



台風15号による千葉の大停電で、木更津・君津・富津を放送エリアにしている、かずさFM様にFM割込防災ラジオを20台寄贈しました。

リズムグループとしての総合力を結集し、更なる収益力の向上へ

- 1 グループガバナンスの強化
 - 子会社管理体制の再構築
 - 経営幹部人材の育成
- 2 収益力の強化
 - 海外売上高の拡大
 - 車載関連売上高の拡大(重点投資による拡大)
 - 時計事業・電子事業の収益力向上
 - グループ間事業の連携強化による新ビジネスの創造
- 3 リズムブランド価値向上
 - ステークホルダーとの関係強化
- 4 ROEの改善
 - 「事業利益確保」「資産効率化」を両輪に財務体質強化とROAの改善を推進。

リズムグループとしての企業価値を高め続けていく

2021年度数値目標

(計画為替レート@120円)

()内は2018年度実績

売上高営業利益率 5.0% (2.5%)

営業利益 17億円 (7.6億円)

ROE 4.3% (▲0.9%) ※ROA 3.0% (▲0.7%)

連結売上高 340億円 (310億円)

海外売上高比率 50% (37.6%)

ステークホルダーとの関係

お客様との関係

人々に喜ばれる製品・サービスの提供

従業員との関係

活力ある企業風土と働きがいのある職場作り

社会・地域との関係

社会の一員としての積極的な活動

株主・投資家との関係

企業価値向上と投資家とのコミュニケーション

重点投資を含めた成長戦略による安定収益の確保へ

≫2016年度～2018年度≫	≫2019年度～2021年度≫		≫2022年度以降≫
	グループガバナンスの強化		
	子会社管理体制の再構築		
	経営幹部人材の育成		
	収益力強化		
海外売上高の拡大	38.0%	海外売上高比率	50.0%
車載関連売上高の拡大	74億円	売上高	110億円
	2.5%	営業利益率	5.0%
	グループ間事業の連携強化による新ビジネスの創造		
	リズムブランド価値向上		
	ステークホルダーとの関係強化		
	ROEの改善(資産の効率化)		
	▲0.9%	ROE	4.3%
	▲0.7%	ROA	3.0%
≫2016年度～2018年度≫	≫2019年度～2021年度≫		≫2022年度以降≫

カテゴリー No.1 の実現

企業価値の向上

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものです。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

更に、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

広報IR担当窓口

リズム時計工業株式会社

管理部 片山(カタヤマ)
山口(ヤマグチ)

電話 048-643-7241(管理部直通)